

平成10年秋季特別展

卑弥呼の宝石箱

10月3日(土) - 11月29日(日)

主催 大阪府立弥生文化博物館 / 毎日新聞社 / 毎日放送 / 富川 博子(短期大学 日本史学科・生活文化学科)

■開館時間 / 午前10時 - 午後5時(入館は4時30分まで) ■休館日 / 毎週月曜日(11月23日)は開館24日(公休休館)

■入館料 / 個人 一般600円・高校生400円・小学生65歳以上・障害者手帳を持つ方は無料(団体 一般480円・高校生320円(団体は20名以上) ■所在地 / 〒594-0083 和歌山県上町4-4-3 電話0735-4402162

■交通 / J 阪和線天王寺駅から25分(橋太山) 駅下車徒歩7分・南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分

■駐車場 / 乗用車80台・大型バス7台無料

考古学 セミナー

時間 午後2時 - 4時
(1時から受付)

場所 1階ホール

第1回 10月11日(日)

講師 大阪府立博物館 先史学 室長
井上洋

「弥生時代の装身具」

第2回 10月25日(日)

講師 大阪府立大学 教授
武田 佐知子

「卑弥呼の衣服」

第3回 11月8日(日)

講師 大阪府立大学 教授
菅谷 文則

「漢の輿服制と出土品」

第4回 11月22日(日)

講師 館長(金岡 忍)と学芸員

「弥生時代のアクセサリ」

●全回参加者には終了証と記念品を贈呈致します。

本館学芸員による展示解説(特別展示室)毎週日曜日 祝日 / 午前11時 -

大阪府立弥生文化博物館

— ちよつとオシヤレな弥生人 —

卑弥呼の宝石箱

—らじっとオシャレな弥生人—

弥生人はアクセサリーにどんな想いを？ 貝・真珠・骨・木・金属・ガラス・ヒスイ・碧玉……。縄紋の伝統に、大陸や南の海から渡ってきた新素材・新技術を加え、弥生の宝石箱はキラキラしています。南海の巻貝に神秘を感じ、金属・ガラスの輝きに憧れた弥生人。卑弥呼のような首長やシャーマンは、そこに何を求めたのでしょうか。アクセサリーの本質はどこにあるのでしょうか。弥生人の身を飾ったさまざまなアクセサリーを一堂に集め、最新資料や、初公開資料も多数展示します。

第①章 アクセサリーの系譜

弥生のアクセサリーはどこから？ 水田稲作をいち早く受け入れた菜畑遺跡のアクセサリー。縄紋の伝統と大陸の素材・技術の交わり、そこは想いの交差するところ。

① 渡来系と縄紋伝統のアクセサリー【佐賀県菜畑遺跡】



第②章 アクセサリーの技と想い

弥生のアクセサリーは多種多様、素材・色・形、そしてどこに飾るか。吉武高木遺跡の豊富な副葬品に秘められるさまざまな想い。美しく加工する技術もさまざまです。



① 碧玉と玉つくりの道具【石川県八日市地方遺跡】



① 漆で作った最古のブレスレット【福岡県カルメル修道院内遺跡】

① 武人を飾ったアクセサリー【福岡県吉武高木遺跡】

第③章 アクセサリーのゆくえ

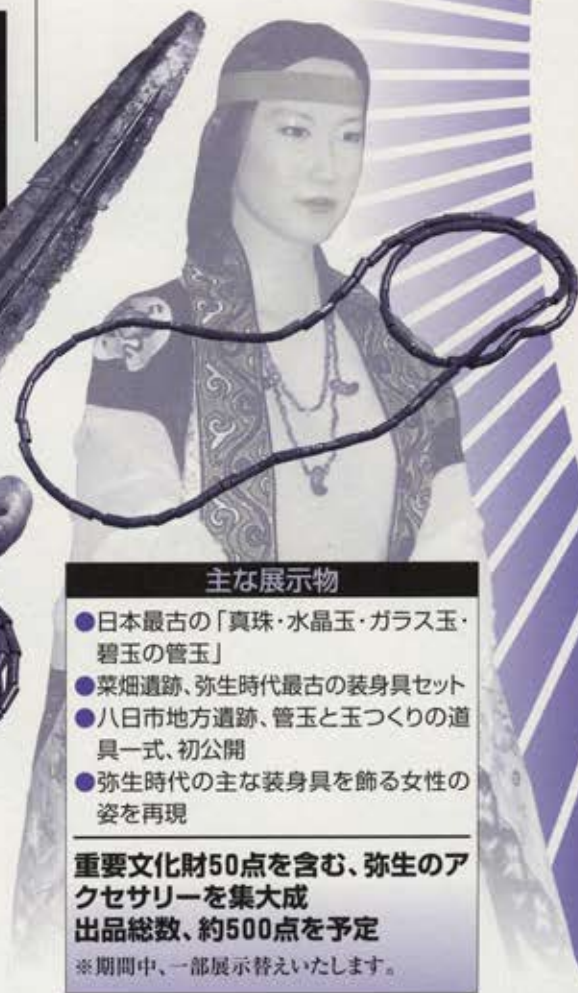
古墳時代以降、アクセサリーへの想いはどこへ。色とりどりの「きもの」に、一度はアクセサリーを捨てた日本人。今は性を問わずにアクセサリーを着ける時代。弥生に通じる何かを想います。



① 碧玉に姿を変えた貝のブレスレット【大阪府茶臼塚古墳】



① 豊富な副葬品をもつ王者の墓【福岡県吉武高木遺跡】



主な展示物

- 日本最古の「真珠・水晶玉・ガラス玉・碧玉の管玉」
- 菜畑遺跡、弥生時代最古の装身具セット
- 八日市地方遺跡、管玉と玉つくりの道具一式、初公開
- 弥生時代の主な装身具を飾る女性の姿を再現

重要文化財50点を含む、弥生のアクセサリーを集大成
出品総数、約500点を予定

※期間中、一部展示替えいたします。